

---

# 神々の試練と壊れゆく世界

御豆腐

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

神々の試練と壊れゆく世界

### 【Nコード】

N8059U

### 【作者名】

御豆腐

### 【あらすじ】

人間の努力の結晶、科学。

その科学の進歩力は素晴らしいものだ。

しかし、雲の上のさらに上…神々はこの科学力に危険を感じていた。

「このままではいつか大変なことになる」

そう考えた神々は、世界をもう一度滅亡させようと考えた。

「滅亡させられなくてはならぬ。『試練』に打ち勝て」

神々は人間に試練を与え、その結果によって世界を滅亡させるか、それともこのまま世界を滅亡させないかを定めることにした。

試練を与えられたのは普通の男子高校生。

世界の運命は全て彼の手にかかっている。

今、主人公《牧野創》の戦いが始まる。

## プロローグ（前書き）

この小説は中三の暇人が衝動的に書いた小説です。

誤字・脱字などは多いかと思いますが華麗にスルーしていただくか感想等で報告していただけると幸いです。

では、「神々の試練と壊れゆく世界」始まり始まり……

## プロローグ

もしも、世界を変えてしまえるほどの力を手にしたら君は何に使う？  
世界平和？戦争根絶？ああ、核兵器の廃止なんてのもあるかもしれないね。

けど、こんなものを望むのは数少ない人々だけだろう。

人間なんてそんなもんだ。  
世界征服や嫌いな人の存在を消す、そんな私利私欲のために使う人がほとんどだろう。

人間なんてそんなもんだ。

何故そんなことが言えるのか？それは簡単な事さ。

君たちを作った…いや、“創”ったのはこの僕だからね。

名乗るのが少々遅れたようだね。

僕の…僕たちの名前は「神」だ。

絶対にして完璧、欠点一つ無い全知全能の存在。

そう君たち人間は思っているようだが、本当のところはそうでもない。

どちらかという君たちと同じように欠点だらけだ。

まあ、君たちよりは流石に少ないけどね。

と、そんなことはどうでもいいんだ。

それより、僕は最近考えていることがあってね。

君たち人間の科学の進歩について、だ。

正直なところ、創造主であるこの僕も君たちの科学力には一目置い

ている。

なにしろ、最近では小型ではあるけれど疑似太陽を作り出せるほどだそうじゃないか。

これは凄い事だよ？

どれぐらい凄いかというと、ヴィーザル君がフェンリルを殺した時の六分の一ぐらい凄い。

亀が歩行するほどの速度ではあるけど、君たちは確実に僕達に近づいてきている。

これは驚異的なことだよ。

そこで、僕たち神々は話し合いの結果ある結論を出した。

『もう一度、世界を滅亡させよう。』

分かりやすく言うと、リセットさ。

世界をリセットするんだ。

そして一から創り直す。

まあ、そんなに驚かなくてもいい。

何も今すぐ滅亡させようってわけじゃない。

君たち人間に、チャンスあげようじゃないか。

僕だって鬼じゃない。

“神”ではあるけどもね。

君たちに与えるチャンスは一つの“試練”だ。

その試練の結果次第で本当に滅亡させるかどうかを決めよう。

結果が良かったら世界はそのままにしておいてあげるよ。

ただし、結果が悪かったらどうなるか…分かるよね？

それじゃ期待してるよ、人間諸君！

## プロローグ（後書き）

感想、お待ちしております。

一言でも感想をくださると、回転してとび跳ねながら喜びますw



助けて神様・・・！（前書き）

（。 。 つ 「本編がスタートいたしました」

助けて神様・・・！

神というのはいつも気まぐれだ。  
気まぐれに人間を創り出したり、気まぐれに世界を滅亡させたりする。

神というものの性質たちの悪いところは、

「その気まぐれを全て叶えることができる」というところである。

俺は現在、とてもピンチな状況下におかれている。

皆は漫画とかでよくあるこう言う展開をご存じだろうか？

道を歩いていると、いかにも不良という容姿みてくれの男達とそれに絡まれている少し可愛い女の子が出現する。

それを確認した主人公が颯爽と助けに入る。

この時のセリフは、

「やめとけ、嫌がつてるだろ？」

とかそんなんだ。

すると不良が、

「あぁん！？何だと！」

的ないかにも不良なセリフを吐いてくる。  
そして主人公は、

「その子、お家に帰りな。ママが待ってるだろ？」

とか言っつて不良どもに突っ込んでいく、という奴だ。

俺は、つい三分程前にそれを実行してしまったのだ。

大変不味い事になった。

突っ込んだ後の事を全く考えていなかった。

後の事を考えずに行動するのは俺の悪い癖だ。

「おい、手前」

不良がなんか言ってきた。

平然とした態度を取ってはいるがとても怖いのに変わりはない。

「あんなことをしたんだ、責任は取ってもらうぜ」

ふりようA は メリケン を そうちやくした！

ふりようB は てつバット を そうちやくした！

ファミコンのRPG風に言っつなら今こんな状況。

不味い、非常に不味い。

このままではしんでしまうぞ！

おっと、不良Aが右拳を構えたよ……？

ついでに不良Bがバットを構えたぞ……？

二人同時に振つたよ・・・！？  
助けて神様・・・！

神頼みなどをしてその二対の凶器が歩みを止めることは無かった。

俺、死んだか・・・  
俺は静かに目を瞑り、最後の人生を楽しむことにした。

神々の試練と壊れゆく世界 ㄱ完ㄱ

・・・おんや？

顔がミンチになった音がしないよ、ばあさんや。

「？」

怖いけど瞑ってた目を開ける。

開けた瞬間ドーン！っていうのがよくあるパターンだと知りながら。

やはり目の前にはバットと握り拳withメリケンが迫っていた。

しかし、“迫っていた”だけだった。

二人の不良の動きが完全に停止していた。  
それこそビデオの停止ボタンを押したかのようにピタリと。  
二人ともピクリとも動かなくなっていた。

「・・・！何だこれ・・・」

よく見ると不良たちだけではない。  
周りの動植物すらもその動きを止めていた。  
まるで時間の進行を否定するかのよう。

「何が起きたんだ？」

訳が分からない。

「俺、超能力に目覚めたのかな」

とりあえず肉体強化系の能力者よろしく不良Aのメリケンにデコピ  
ンをぶつけてみた。

ガシャン、と音を立てながらメリケンが砕けた。  
時が止まっているからか粉々になった状態でも地面に散らばること  
は無い。

「おおふ・・・」

あながち冗談ではなく本当に能力に目覚めたのかもしれない。

「しかし、何で急に・・・」

「それは君が僕を呼んだからさ」

「うおっ!？」

背後から急に声がした。

振り向くとそこにはスーツ姿に背中に羽、頭に輪っかという格好の男がいた。

「だ・誰だ、あんた」

「僕？僕は神だよ」

「神？」

この人は頭が残念な方なのだろうか。

「失礼な。僕は本物の神様だよ？」

「心を読むな」

「酷いなあwちよつとぐらい良いじゃんw」

「ダメに決まってるだろ、プライバシーの侵害だぞ」

「それは人間の話でしょ？僕は神だからいいのさ」

駄目だこいつ・・・早くなんとかしないと・・・

「で、その神様が俺に何の用があると？」

「用があるのは君の方でしょ？」



「は？」

「さっき『助けて神様・・・！』って言ってたじゃん」

「ああ・・・で、助けてくれたのか」

「これも神様の気まぐれのおかげだよ」

「ありがとう、おかげで顔面ハンバーグができずにすんだよ」

「いや、お礼をするのはこっちの方だ。おかげで探す手間が省けたんだからね」

「何か探しものでもしてたのか？」

「うん、“試練”の対象となる人間を、さ」

瞬間、止まっているはずの風が動き出した気がした。

・

・

・

助けて神様・・・！（後書き）

感想お待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8059u/>

---

神々の試練と壊れゆく世界

2011年10月9日09時42分発行